



殻付きの生カキを炭火焼きにして楽しむ人でにぎわった「九十九島かき食うカキ祭り」

広報
No.652

させぼ



広報させぼ 編集長
「キューちゃん」

特集 西海国立公園50周年
体感！九十九島

2～8 p

今月の主な内容

- 市町村合併、異動シーズンの窓口利用など 9～13 p
- 施設だより、イベント 14～15 p
- 市民の広場 16～17 p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 26～27 p
- 九じろうの取材日記 28 p



PUBLIC RELATIONS SASEBO



広報 させぼ

平成17年3月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184
〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社

九じろうの取材日記

国際理解指導員
ケリー・リチャーズさん



児童一人ひとりに、ていねいに教える
ケリーさん

平成15年度から国際理解指導員派遣事業がスタートしました。
この事業の目的は、小学生が英語や異文化に触れる機会を持つことにより、国際的な感覚や豊かな心情を培うことです。本市には、現在9人の国際理解指導員がいまですが、今回はその一人ケリー・リチャーズさん取材しました。

清水小学校での授業風景

3校時目のチャイムが鳴ると、職員室のケリーさんを4人の児童が訪れ、3年2組の教室へと案内しました。ドアを開けると、教室の中は子どもたちの熱気であふれています。「Stand up」の掛け声で全員が起立し、授業が始まりました。

まず、ケリーさんが黒板にdesk(机)と英語で書いて発音すると、児童がその後続きます。さらに「Chair(いす)」「Teacher(先生)」などいくつかの単語の発音練習をした後、「This is my desk(これは私の机です)」という文章に移り、次に「What is this?(これは何ですか)」という疑問文を練習しました。ケリーさんが、ジェスチャーを交えながら繰り返し行っていききました。
その後、全員で輪になって座り、「ホット・ポテト」というゲームに移りました。音楽に合わせて小さなバッグを左隣の人に手渡し、音楽が止まったときにバッグを



△輪になって座り、質問に答えます
バッグを回していく児童たち

英語教育で大事なことは、話すことを恐れないこと
米国出身のケリーさんは、大学卒業後、1年間母国の小学校で教えた経験があります。佐世保米海軍基地に勤務する夫と結婚したことで来日し、昨年9月に国際理解指導員に採用されました。
日本人についての印象は、「親

持っていた人に、ケリーさんが、きょう学習した文例を使って質問していききました。うまく英語で答えられた人には拍手を送り、恥ずかしがっている人には、みんな応援です。子どもたちは次第に夢中になり、表情も生き生きとしてきました。

編集長から「一言」

市外に住む人から「佐世保は、九十九島やハウステンボスがあるいい所ですね」と言われたことがあります。その時は、お世辞で言っているのだらうと思いましたが、今回九十九島を特集し、あらためて市民が誇れる場所だと感じました。(K)

切で大好き。子どもはおとなしくて、行儀が良いです」とのこと。
英語教育について尋ねると、「まず第一に英語を使えるということが大事で、学んだことを毎日の暮らしの中で使ってみることで。子どもたちも、初めは恥ずかしがっても、「大丈夫ですよ」と勇気づけ、繰り返し発音していくうちに慣れてきて、英語を話すことを恐れなくなります。外国語学習は、先入観の少ない子どもたちから始めた方が良いでしょう」と話してくれました。
現在、市内の小学校では、国際理解指導員のほか、ALT(外国語指導助手)や、学校によっては地域の人材を生かした独自の取り組みで、英語を教えており、本市でも国際化時代に即した英語教育が徐々に根付いているようです。